

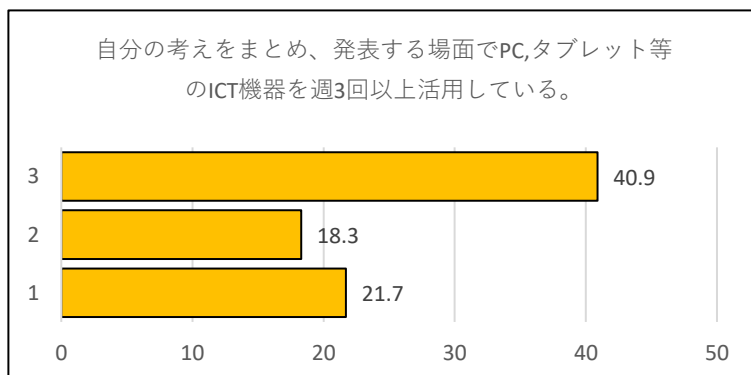
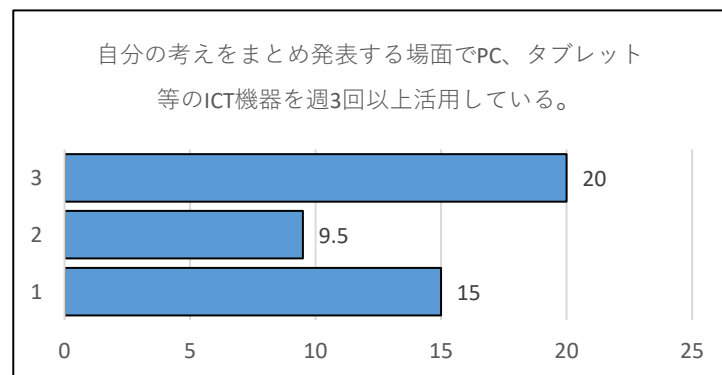
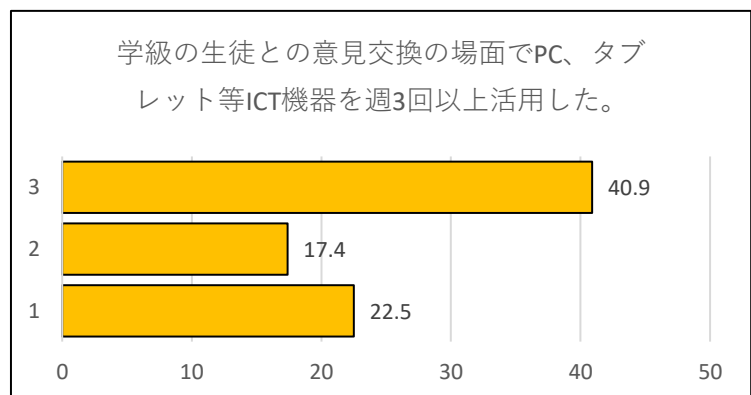
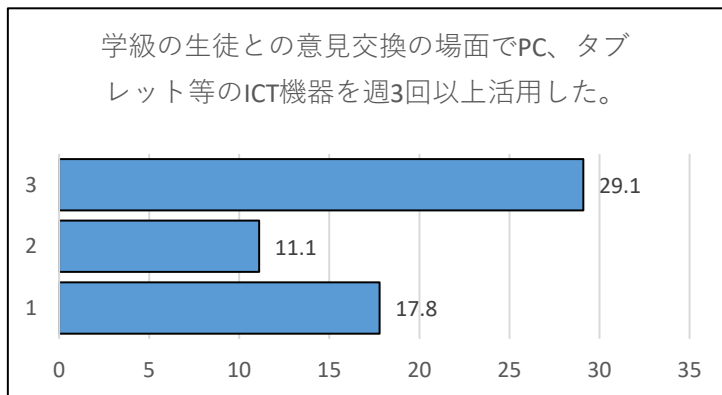
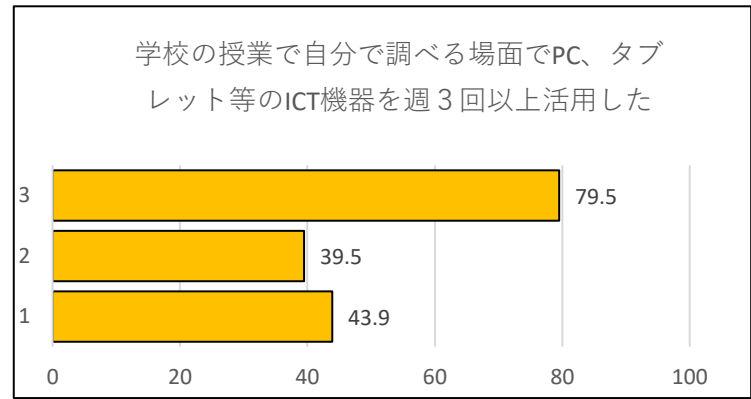
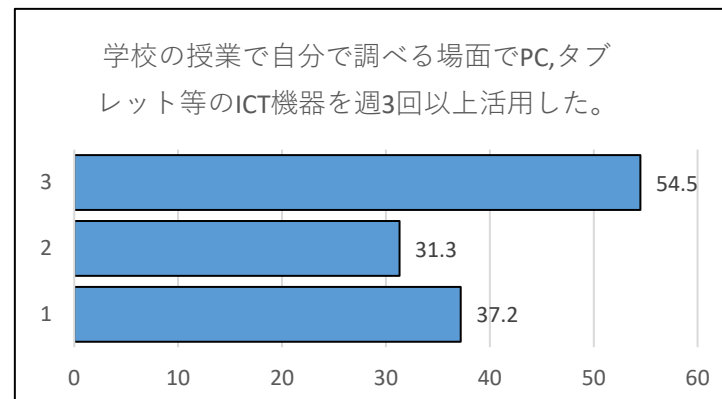
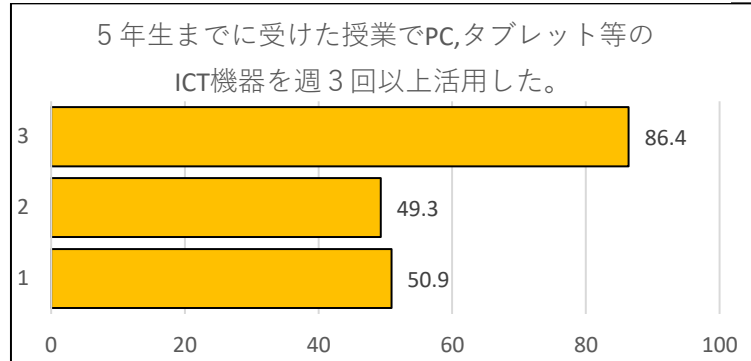
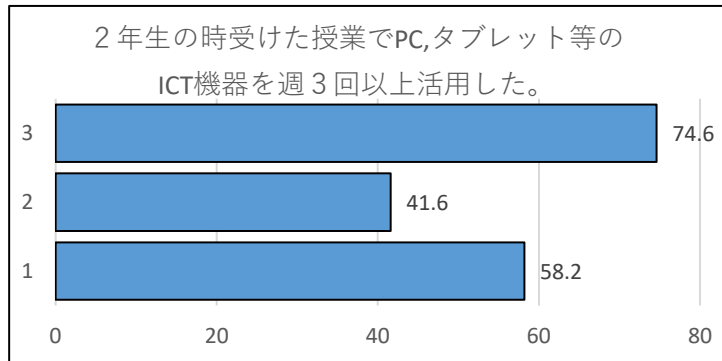
## 特設教科「国際・情報科」の評価考察

【令和4年度全国学力学習状況調査から】

上段：本町児童生徒（％） 中段：県平均（％） 下段：全国平均（％）

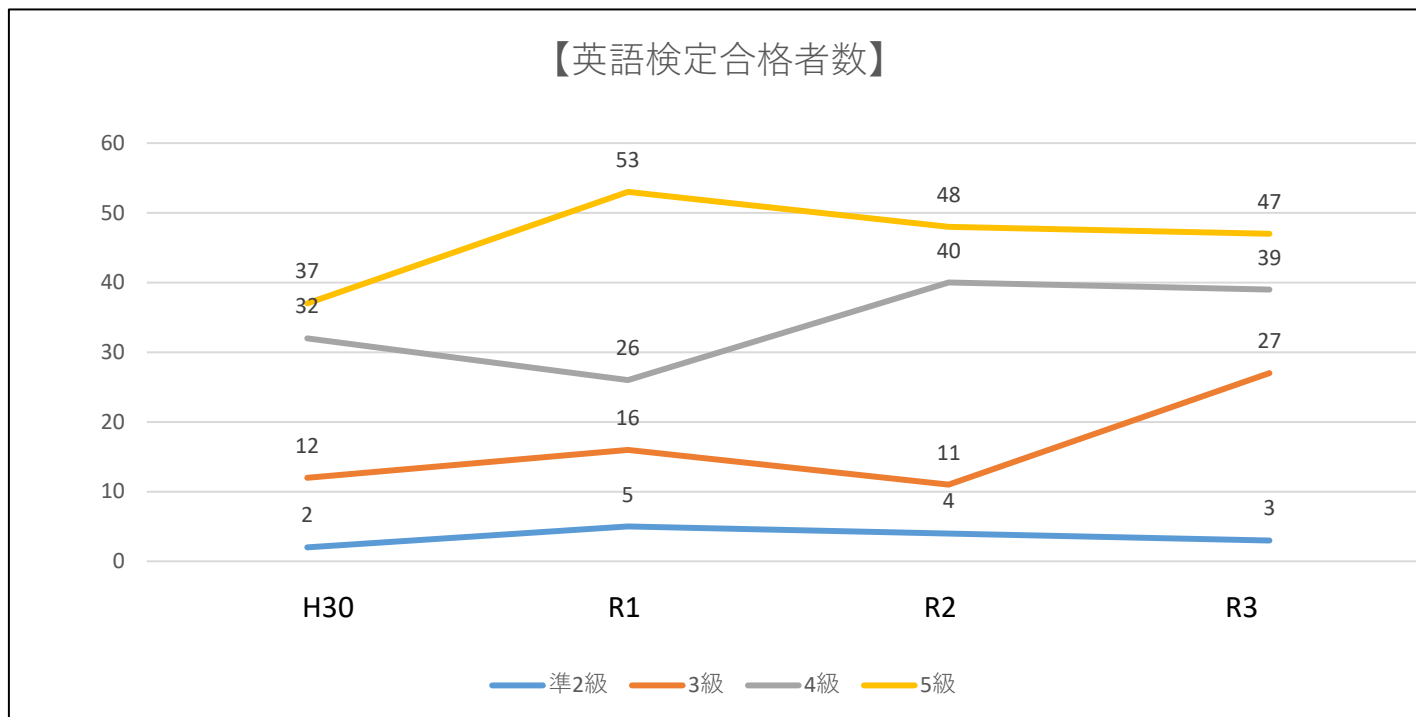
【中学3年】

【小学6年】



本町では保小中高一貫教育の推進にあたり、教育課程特例措置による「国際・情報科」を特設教科として設置し、その情報分野では実践的な情報機器活用力の育成を目指している。

令和4年4月実施の全国学力学習状況調査における児童・生徒のICT機器活用状況では、小学校中学校ともに学習の多くの場面において県、全国平均を大きく上回っている。特設教科による計画的な指導により活用スキルが向上し、各教科で幅広く活用されていることがうかがえる。また小国小学校、小国中学校が令和2年度から2か年にわたりICT機器活用拠点校として機器活用指導実践が積み上げられたことも大きなプラス材料となっていると思われる。今後、情報分野の指導計画の見直しを図り、系統的に基礎的なICT機器活用スキルの指導を継続することで、児童生徒のさらなるスキル向上を図っていきたい。



**【オンライン国際交流(マレーシア) 振り返りアンケート結果】**

学校名：SMS MIRI (Sarawak州)  
学校名：KOLEJ TUN DATU TUANKU HJ BUJANG (Sarawak州)

令和3年11月30日、12月7日実施 小国中2年生54名

\* 各項目4点満点で回答

(1) 外国人との対話は楽しめましたか。	(3. 9 4)
(2) 相手国のイメージは変わりましたか。	(3. 7)
(3) 交流を通じて「外国から見た日本」を感じることはできましたか。	(3. 7 2)
(4) 失敗を恐れずに挑戦できましたか。	(3. 3 6)
(5) 挑戦する仲間を応援できましたか。	(3. 9)
(6) わからない時、仲間を頼りましたか。	(3. 6 8)
(7) 国際的な学びを続けたいですか。	(3. 6 4)
(8) 何か新しい発見がありましたか。	(3. 6 2)

「国際・情報科」国際分野では、保育園における「幼児ふれあい英語活動」、小中学校における特設教科「国際」において、多様性の理解や国際理解を深めながら、英語によるコミュニケーション力の育成を目指した授業が展開されてきた。

学習指導要領の改訂により、小学校においては3，4年生の外国語活動、5，6年の外国語が教科として教育課程に位置づけられたことで3年生から6年生の授業時数上の特例措置は行われていないが、英語教育推進指導員、国際情報特任講師、ALTが校種を横断する形で指導のサポートに入り、連携を意識した指導を展開し学習の質的向上を図っている。

中学校における「国際」では1年生で国際講話、2，3年生でオンライン交流を実施しコミュニケーションへの動機付けを図り、外国語によるコミュニケーション力の育成を図る授業を展開している。授業で培ったスキルを実践する場としてのオンライン交流では、マレーシアで日本語を学ぶ中学生と英語と日本語で交流した。同世代の子ども同士が日本語混じりの英語、英語混じりの日本語で交流し、上記のアンケートのように成就感を味わうことができたようである。

各校では学びの成果を確かめる場として英語検定受検を推奨しており、生徒数が減少傾向にある中で、検定受検者は増加傾向にある。また、3級以上の合格者も増加傾向にある。特に令和3年度は3級合格者が大幅に増加した。本町では地域学校協働活動の一環として白い森学習支援センターが設置され、学校外での外国語学習に係る様々な講座も展開され、子ども達の国際学習ををサポートしている。これらの取り組みも含めて、総合的に子ども達の国際学習への動機付けが図られ、コミュニケーション力育成につながっていると考える。